

# 筑波大学附属図書館プロモーションビデオ4か国語字幕版の提供及び留学生サービスの現状と課題

村尾真由子\*

筑波大学附属図書館

## I. はじめに

筑波大学附属図書館（以下「図書館」）プロモーションビデオ『週5図書館生活、どうですか?』（以下「本ビデオ」）は、日本語の音声に加え5種類の字幕設定（字幕なし／日本語／英語／中国語／韓国語）を備え、そのプラットフォームとして制作した同名のプロモーションサイトと合わせて平成20年4月からWebで公開している（図1）<sup>1)</sup>。これは、日本人学生のみならず留学生を含む「新入生」をメインターゲットとしたプロモーション活動の一環である。この活動は、①学生の視点を重視した親しみやすい図書館利用案内に成功している点、②図書館プロモーションという観点を導入し図書館利用に関する多様なコンテンツを掲載したサイトを構築している点、③利用者との双方向コミュニケーションを図っている点において先行的で独創性を有しているとして、平成21年度国立大学図書館協会賞を受賞した<sup>2)</sup>。

本稿では、はじめに図書館が提供している多言語・多文化サービスの代表例として「留学生サービス」を概観し、次に本ビデオ制作の背景やコンセプト、4か国語字幕版の制作等について報告し、最後に図書館における留学生サービスの今後の展望について記す。

## II. 図書館における留学生サービス

筑波大学（以下「本学」）は、「開かれた大学」という建学の理念に基づき積極的な国際化戦略を掲げている。平成24年度の調査によると留学生の受け入れ数は全国7位<sup>3)</sup>であり、全学生数のおよそ12%にあたる2,033人（平成25年10月1日現在）の留学生が在籍している。外国人教員数も平成24年度調査で全国14位の66人<sup>4)</sup>、平成25年4月1日現在では95人と多く、グローバルな環境で教育・研究が行われている。図書館は、このように多様な文化的背景をもつ大学構成員が日本人と同レベルの



図1. プロモーションサイト「週5図書館生活、どうですか?」

サービスを楽しむ、スムーズに学習・研究に取り組めるよう多言語・多文化サービスの向上に努める必要がある。

なお、本学の図書館は、中央図書館と4つの専門図書館（体育・芸術図書館／医学図書館／図書館情報学図書館／大塚図書館）で構成されている。本稿では主として中央図書館での留学生サービスを紹介する。

### 1. 留学生オリエンテーション

本学留学生センターとの連携により、新入留学生全員が参加する同センター主催の全体オリエンテーションで図書館の留学生オリエンテーション（以下「留オリ」）の日程が通知される。留オリは自由参加であり、1回60分から70分、年間実施回数約10回、約210人の参加（平成20～24年度の平均値）となっている。内容は、本ビデオの上映や図書館の基本的な使い方の説明、館内ツアーである。近年は教員からの留オリの依頼も増えている。

### 2. 館内サイン

平成20年度から22年度に行われた中央図書館耐震改修工事と合わせて、館内サインを和英併記のよりわかりやすいものに一新した。

### 3. 国際交流コーナー

国際交流コーナーでは、日本語習得に役立つ資料、キャンパス情報・地域情報資料、日本の文化・生活に関する

\*Mayuko MURAO : 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1.  
(2013年10月21日 受理)

資料、日本の漫画（外国語版）など合計約1,000冊の資料を備え、海外衛星放送 AsiaSat を提供している。当コーナーは、本館3階にある会話が出来るラウンジの一角に置かれ、国際交流の場としての機能も持たせている。

#### 4. 図書館ボランティアによるサービス

外国語に堪能な図書館ボランティアが、留学生に対してオリエンテーション時の館内ツアーガイドや、ボランティアカウンターにおける日常的な利用支援を平成7年度から継続して行っている<sup>5)</sup>。また、図書館ボランティアが定期的に開催している折り紙講習会は、日本の文化に触れる国際交流の機会として人気が高い。

#### 5. 英語によるデータベース講習会

全学術分野を収録対象とする2つのデータベース（Web of Science 及び ProQuest Central）について、英語での講習会を平成24年10月及び平成25年5月に合計3回実施し30人（延べ数）の参加があった。

当講習会は最近取り組んだサービス改善の一つである。留オリは従来から英語で実施してきたが、データベース講習会は日本語のみの開催であった。今後留学生の増加が見込まれる中で、英語によるデータベース講習会も必要と考えた。開催に当たっては、平成24年9月に留オリの参加者を対象としたアンケートでニーズを確かめ、外国人教員にもデータベース講習会の必要性について相談した。講師は、実施のしやすさと担当職員の負担を考慮し、全て各データベース提供元のインストラクターに依頼している。担当職員にとっては、講習会当日の運営を行いながら英語でのプレゼンテーション技法を見て学べるというメリットも大きい。

今後はデータベース講習会に留まらず、学習支援を目的とする各種セミナー等についても英語による提供を視野に入れて企画を検討したい。

このほか図書館 Web サイトや利用案内、フロアマップなどの英語版を用意し、英語による情報発信の強化に対し段階的に取り組んでいるところである。

### Ⅲ. 図書館プロモーションビデオ

本ビデオは、先述のとおり留学生のための4か国語字幕版を備えた図書館プロモーションビデオである。本ビデオの企画と制作については既に別稿<sup>6)</sup>にて詳細に報告しているので、本章は主に留学生サービスの観点からまとめたい。

#### 1. 「図書館案内」から「図書館プロモーション」へ

平成15年に制作した図書館案内ビデオの更新のため、図書館案内ビデオ企画ワーキンググループ（以下「企画WG」）を平成18年12月に設置した。

企画WGでは、図書館案内ビデオの役割を再検討した。まず、①図書館の各種情報資源をほとんど活用しないまま卒業する学生がいること、②多くの学生が入学時のオリエンテーションで図書館案内ビデオを見ているにもかかわらず内容を覚えていないこと、③図書館案内ビデオが学生の図書館利用意欲を喚起していないこと等の問題意識を共有した。その上で図書館案内ビデオの役割を、①学生が図書館に興味を持つこと、②学生生活の中で図書館をどのように活用できるのかを知ることとした。単に古びた部分を差し替えるだけの更新ではなく、より積極的に広報・プロモーション活動の一環として捉え直すこととした。

平成19年度からは、企画WGをプロモーションビデオ制作ワーキンググループと改め、ビデオ制作を開始した。従来の図書館案内ビデオは、「図書館」が主役で利用方法を説明するナレーションが淡々と流れるものだった。新しいビデオは、主役を「学生」に置き換え、利用上の規則や約束事の説明はできるだけ抑えながら、メリハリとスピード感のある映像で学生の日常生活における図書館活用を提案するスタイルとした。すなわち「図書館案内ビデオ」から「図書館プロモーションビデオ」への転換である。

#### 2. コンセプト

本ビデオの主なコンセプトは次の3点である。

- ・学生の視点から図書館の利用法を提案する
- ・学生に図書館への親近感を持ってもらう
- ・Webをプラットフォームとする

プロモーションサイトでは、本ビデオとリンクした提案型利用ガイド『週七のお薦め利用術!』（図2）や写真集など様々なコンテンツを提供している。これらの関連コンテンツは、わかりやすさ・楽しさ・親しみやすさを目指し、図書館公式マスコットの登場や会話調の文体により、あたかも先輩や友人からのアドバイスであるかのような演出を施した。

#### 3. シナリオ

「2. コンセプト」で示したコンセプトに基づき、シナリオを①退屈な説明はしないこと、②スピード感を持たせること、③メリハリのあるストーリー展開とすること



図2. 「週七のお薦め利用術」画面

に配慮したドラマ仕立てのものとした。

主人公は、勉強だけではなく、一見図書館とは結びつきにくい体育系サークル活動の中でも図書館を活用する。このような意外な視点を提示しながら、恋愛や喜劇的要素を織り交ぜ、学生にとって身近で楽しい日常生活を表現した。基本的な図書館の使い方は自然なストーリー展開の中に組み込んだ。

本ビデオには、日本語をほとんど話せないにもかかわらず侍言葉だけはしっかり話す留学生が登場する。留学生と日本人学生との何気ない交流により、留学生が大学の一員として自然に受け入れられている様子を表した。

「学生志向でつくる」ことを目指した本ビデオは、「学生とつくる」ことにもこだわった。制作・出演を担った本学学生<sup>7)</sup>と職員とのコミュニケーションが協働制作の要だった。常にコンセプトを共有しながら、学生の視点でアイデアを出してもらったことが、学生が見て楽しいビデオを作るために有効であった。

#### 4. 4か国語字幕版の制作

本ビデオを制作した平成19年度時点において中国及び韓国出身の留学生が59%であり、英語のほか中国語・韓国語の字幕版を提供することに必然性があった。本学Webサイトにおいても平成20年10月から日英中韓の4か国語対応となっている。

字幕版は、職員が仮編集段階のビデオをもとに日本語原稿を書き起こし、本学の留学生センターから紹介を受

けたネイティブの留学生が翻訳した。提出された翻訳原稿をもとに各国語字幕版ビデオを編集し、完成後ニュアンスの違いなど不自然な箇所がないか、再び翻訳者に確認を依頼した。

中国語・韓国語字幕版の制作では、これらの言語に習熟している職員の不足のため翻訳原稿の正確さを確認することが難しかった。また本ビデオの制作に携わった学生の所属・学年・生活スタイルが多様なため、スケジュール管理に細かな配慮が求められた。

#### 5. プロモーションビデオの活用と課題

##### 1) オリエンテーションでの上映

本ビデオは、公開当初(平成20年4月)から日本人か外国人かを問わず新入生向けオリエンテーションで上映されてきた。平成20年4月から平成25年10月までの留オリにおける本ビデオ上映回数は合計44回、参加留学生数は1,055人であった<sup>8)</sup>。

旧図書館案内ビデオの上映と異なり居眠りをする学生はほとんど見られず、時折会場からどよめきや笑い声が上がるようになった。その反応は、留学生に対して英語字幕版を上映する際にも同じであった。

##### 2) プロモーションサイトでの視聴

プロモーションサイトで公開している本ビデオのアクセス数を図3に示した<sup>9)</sup>。年度の上半期と下半期でアクセス数に変動があるが、この2年半を見ると半期に平均476件のアクセスがある。



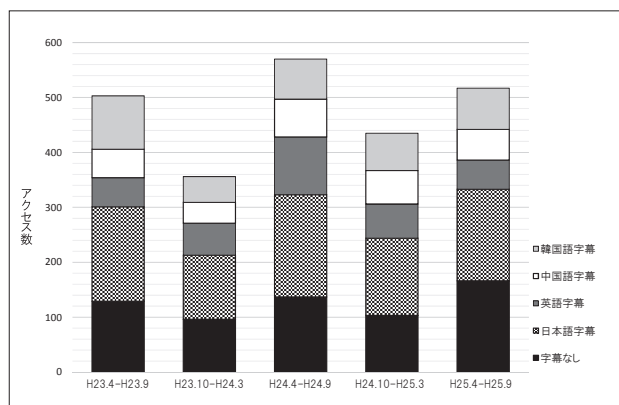


図3. プロモーションビデオアクセス数 (H23.4～H25.9)

本ビデオの全アクセス数に占める各国語字幕版の割合は英語字幕14%、中国語字幕12%、韓国語字幕15%（半年ごとの割合の平均値）であり、アクセスログを確認できた平成23年度以降では経年変化がほとんど見られなかった。

### 3) 課題

平成25年9月から10月に行われた全6回の留オリで本ビデオの英語字幕版を上映し、合わせて視聴アンケートを実施した<sup>10), 11)</sup>。回答者数152人のうち、本ビデオを見て図書館を使ってみたくなったと回答したのは132人（約87%）であり、自由記述欄には「面白かった」「役立つ情報がたくさんあった」「わかりやすい」「飽きずに見られた」といったプラスの意見が多く寄せられた。これらによって先述の制作コンセプトが未だ古びておらず、かつ留学生にとっても有効であることが確認できた。一方で「もっと詳しい図書館の使い方の説明が欲しい」という意見も少数ながら見られた。また、上映時間については「ちょうどいい」が120人（約79%）に対し「長すぎる」が27人（約18%）おり、上映時間の短縮を検討すべきということが確認できた。ちなみに、聴覚障害者や音を出せない環境での視聴に配慮し日本語字幕版を用意したが、今回36人（約24%）の留学生から日本語字幕を選ぶとの回答があり、想定した以上の日本語字幕の需要が明らかになった。

これらの結果も踏まえて、主に留学生サービスの観点から本ビデオの課題を挙げる。第一に、上映時間（約23分）をより短くした方が視聴しやすいという利用者からの声がある。また、図書館職員から一部内容の修正を希望する声が上がっている。本ビデオのコンセプトは何ら古くなっていないものの、改訂を検討すべき時期にきている。

第二に、プロモーションサイトについては、英語ペー

ジでさえ完全ではない。これは親サイトである図書館Webサイト全体にもいえる課題である。図書館の学習支援活動の充実に伴い、当プロモーションサイトの日本語のコンテンツは充実してきた。しかし外国語のコンテンツの種類と量は5年前とほとんど変わっておらず、充実が急がれる。一方で、コンテンツによっては日本語ページをそのまま英訳すれば済むわけではないところに難しさがある。日本語を使わない利用者にとって、例えば講習会の案内ページでは、英語で行われる講習会の情報を中心に書かれている方がわかりやすい。英語ページを閲覧する人の目的に即した内容とする配慮が必要である。

## IV. 「国際性の日常化」すべての学生に学習支援・知的交流の機会を

本学の教育研究のグローバル化を示す標語の一つに「国際性の日常化」<sup>12)</sup>がある。国際性が日常化したキャンパスにおける図書館は、留学生が日常的に利活用できるサービスが充実しており、留学生にとって頼れる存在であることが望ましい。そのためには、第一に、主として英語で学習する留学生にとっての情報ニーズや学習支援のニーズを把握することが求められる。例えば、平成24年10月から日本語で開催している『ライティング支援連続セミナー』の初年度には、留学生が多数参加し好評を得た。それにより留学生のための日本語ライティング支援のニーズがあることがわかった。留学生が必要とする学術情報資源及び学習支援の機会を今後も継続して整備していく必要があるだろう。

第二に、留学生サービスを維持・発展できる層の厚い人的支援体制を築く必要がある。平成23年9月から中央図書館ではラーニング・スクエア（ラーニング・コモンズ）の学生サポートデスクでラーニング・アドバイザー（大学院生）による人的支援を開始した。今後は職員の英語によるサービスに対する苦手意識の克服、語学力の向上、役立つツールについての知識や経験の共有などに組織として取り組むことが大切であると考えている。

第三に、留学生の成果発表の機会を提供することや、留学生と日本人学生の知的交流を促進するような取り組みが必要ではないかと考える。

そう考える契機となったのは、本学学生グループ「国際書道クラブ」と中央図書館が協働で開催した展示「書Book-Calligraphy Exhibition」（会期：平成25年4月22日～5月24日）<sup>13)</sup>の実施であった。この展示では、留学生と日本人学生が「新入生に贈る言葉」をテーマに制作した書道作品と、母国紹介や好きな日本語などを描いた

ポスターを展示し、合わせて関連図書や雑誌新聞の切り抜きなどを添えた。また、来場者参加型企画として巨大な世界地図を設置し、来場者の出身地にカラーシールを貼ってもらうことにより本学の国際色豊かな環境が見てとれる「出身地マップ」を作成した。このように当展示は、従来のような図書館資料の展示に留まらず、多言語・多文化を紹介し、留学生と日本人学生の交流をサポートする新たな試みとなった。

今後、本学の国際交流グループ（Cosmos - Café<sup>14)</sup>等）や関連部局と連携しながら、学内有数の集客力をもつ図書館のメリットを活かし、留学生による成果発表の機会を広く提供することで、本学に相応しい国際性を備えた知的交流の場を形成していくことが可能であろう。

## V. おわりに

本学は、平成21年7月に政府が留学生の受け入れ拠点となる大学を支援する文部科学省「国際化拠点整備事業（グローバル30）」の拠点校に採択された<sup>15)</sup>。これにより、学生の4人に1人が留学生、教員の10人に1人が外国人となることを平成32年時点での達成目標としている。

さらに本学は、平成24年度に文部科学省「特色型グローバル人材育成推進事業」に採択された<sup>16)</sup>。大学として優秀な留学生を増やすための努力を継続するとともに、グローバル人材育成のための学内改革を全学レベルで積極的に進めていくことになった。

このような状況にあって、本学の学習・教育・研究基盤である図書館が、主体性を発揮し他部局との連携を図りながら本学の急速なグローバル化に適応し、またグローバル化を先導していくことは、本学の発展に大きく寄与する要素の一つとなり得るのではないだろうか。図書館は今後の高等教育全体の動向や学内の状況を注視しながら、先を見据えた新たな事業への取り組みを検討すべき時期にあるだろう。

それは必ずしも何か大きな事業である必要はない。留学生サービスに限らず、サービス改善において最も基本的で大切なことは、現在提供している図書館サービス・学習環境を利用者の視点で見つめ直し、快適さ・利便性を地道に高めていこうとするホスピタリティ、心遣いであると考える。一つ一つは小さなことでも、おもてなしの心を持って改善を積み重ねることにより、日本らしい良さを備えた学習・研究環境を図書館に築くことができると信じている。

## 注・引用文献

- 1) 筑波大生向け図書館プロモーションサイト『週5図書館生活、どうですか?』[internet]. <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/w5lib/> [accessed 2013-10-01]
- 2) 国立大学図書館協会. 国立大学図書館協会賞平成21年度審査結果報告[internet]. [http://www.janul.jp/j/operations/award/shinsa\\_20.pdf](http://www.janul.jp/j/operations/award/shinsa_20.pdf) [accessed 2013-10-01]
- 3) 独立行政法人日本学生支援機構. 平成24年度外国人留学生在籍状況調査結果[internet]. [http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/documents/data12.pdf](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data12.pdf) [accessed 2013-10-08]
- 4) 週刊朝日編. 大学ランキング2014. 東京: 朝日新聞出版; 2013.p.199.
- 5) 大久保明美. 筑波大学附属図書館における図書館ボランティアの活動成果と今後. 大学図書館研究. 2005;75:71-80.
- 6) 岡部幸祐, 金成真由子. 図書館プロモーションビデオ「週5図書館生活、どうですか?」の企画と制作-利用案内ビデオから学生志向のプロモーションビデオへ. 大学図書館研究. 2009;85:1-11.
- 7) ビデオ撮影・編集は本学サークル「筑波放送協会」に、出演は「劇団竹蜻蛉」及び「サイクリング部」に依頼した。
- 8) 中央図書館耐震改修工事後の施設と本ビデオの映像にギャップが生じたため、平成23年4月～25年10月に実施した留オリにおける上映は31回(受講者数608人)中16回(受講者数373人)にとどまった。
- 9) サーバーの入れ替えにより公開当初からのログは解析できず、現在解析可能な平成23年4月以降のログのみ集計した。
- 10) 本ビデオ公開直後の平成20年6月～9月に日本語によるWebアンケートを実施し、その結果をWebで公開した。また注・引用文献6)の「5.3 学生アンケートから得た成果と課題」にも記した。
- 11) 筑波大学附属図書館. 週5図書館生活, アンケート結果発表 [internet]. <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/w5lib/questionnaire-200808.html> [accessed 2013-10-01]
- 12) 筑波大学. 「筑波大学 | 国際交流 | 国際化戦略」 [internet]. <http://www.tsukuba.ac.jp/global/strategy.html> [accessed 2013-10-01]
- 13) 筑波大学附属図書館. 書 Book-Calligraphy Exhibition [internet]. <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/w5lib/?p=2882> [accessed 2013-10-01]
- 14) 筑波大学. 社会連携「交流イベントとサイエンスカフェ: Cosmos - Café」[internet]. <http://www.tsukuba.ac.jp/community/exchange/science-cafe.html> [accessed 2013-10-01]
- 15) 筑波大学. 特集 グローバル30[internet]. Tsukuba Communications. 2009;5:12-15. <http://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/communications/pdf/200910.pdf> [accessed 2013-10-01]
- 16) 筑波大学. グローバル人材育成事業 (特色型) 採択について[internet]. [http://www.tsukuba.ac.jp/public/press/120927\\_01.pdf](http://www.tsukuba.ac.jp/public/press/120927_01.pdf) [accessed 2013-10-01]